



2019年1月18日
志賀高原ユネスコエコパーク協議会
公益財団法人イオン環境財団

日本ユネスコエコパークネットワークとイオン環境財団の連携協定に基づき
「第1回 志賀高原ユネスコエコパークフェア」を開催
1月26日（土）・27日（日）、イオンモール松本で

志賀高原ユネスコエコパーク協議会（会長 竹節義孝 長野県山ノ内町長）と公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役 以下当財団）は、1月26日（土）・27日（日）にイオンモール松本にて「第1回 志賀高原ユネスコエコパークフェア」を開催します。

イオン環境財団は、志賀高原ユネスコエコパーク協議会を含む日本各地のユネスコエコパークが組織する、日本ユネスコエコパークネットワーク（会長 前田 穰 宮崎県東諸県郡綾町長）と、2017年に国内初となる連携協定を締結しています。同協定は、“生態系の保全”と“持続可能な利活用”の調和を目指し、日本のユネスコエコパークにおける3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）に関して連携して取り組むものです。

協定に基づく取り組みとして、今回、イオンモール松本（長野県）においてステージイベントやワークショップ、パネル展示、志賀高原ユネスコエコパークの特産品の販売などを実施し、同パークの豊かな自然と人々との関わり等をわかりやすくお伝えします。また、イオンの店舗を拠点に小中学生が環境活動などに取り組む「イオン チアーズクラブ※」と同パークが連携し、新たな学習プログラムをスタートします。プログラムの1回目の活動として、クラブの子どもたちもフェアに参加し、エコパークへの理解を深めます。2回目の活動では、実際に志賀高原ユネスコエコパークを訪れ、野外実習等を通じて生物多様性や自然との共生について学ぶ予定です。

【志賀高原ユネスコエコパークフェア】

日 時：1月26日（土）・27日（日）
場 所：イオンモール松本（長野県松本市中央4丁目9番51号）1階「きらめきコート」
主 催：志賀高原ユネスコエコパーク協議会
公益財団法人イオン環境財団
内 容：開会セレモニー、ステージイベント、ワークショップ、パネル展示、
志賀高原ユネスコエコパークの特産品販売など

【開会セレモニー】

日 時：1月26日（土）14：00～15：00
場 所：イオンモール松本 1階「きらめきコート」
出 席 者：志賀高原ユネスコエコパーク協議会 会長 長野県山ノ内町長 竹節 義孝
イオンリテール株式会社北陸信越カンパニーエリア政策推進チームリーダー 伊佐 研一
イオンモール株式会社東海・長野事業部長 小林 重治

*セレモニーでは、イオン上田店（長野県上田市）を拠点に活動する「イオン チアーズクラブ」の子どもたちが、昨年1年間の活動をまとめた壁新聞の発表会を行います。

※イオン チアーズクラブ：公益財団法人イオンワンパーセントクラブの支援により、店舗ごとにクラブを組織し、小中学生が環境に関する学習や体験を通じて、考える力や社会的なマナー、ルールを身に付ける場をイオン各社が提供しています。全国の総合スーパー「イオン」等460店舗において、店舗の従業員のサポートのもとで活動しています。

【ご参考】

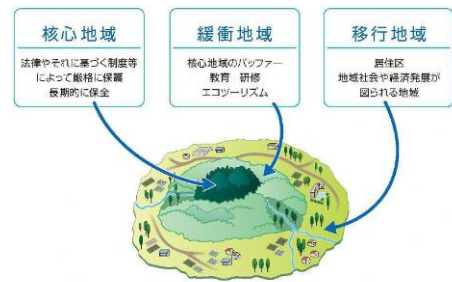
【ユネスコエコパークについて】

ユネスコエコパーク（生物圏保存地域、BR：Biosphere Reserves※¹）は、1976年にユネスコが開始しました。世界自然遺産が、手つかずの自然を守ることを原則とする一方、ユネスコエコパークは、“生態系の保全”と“持続可能な利活用”の調和（自然と人間社会の共生）に重点を置いています。登録件数は122カ国686件で、日本では9件※²です。

自然と人間社会の共生を目指すユネスコエコパークには、3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）があります。そしてその機能を果たすために3つの地域（核心地域、緩衝地域、移行地域）が設けられています。核心地域では、厳格に自然が保護され、核心地域保護のための緩衝地域では、教育・研修・エコツーリズムなどが行われています。移行地域は、人が生活し、自然と調和した持続可能な発展を実現する地域であり、環境を守りながら、循環型で持続可能な地域づくりが行われています。

※¹ 日本ではより親しみをもってもらうため、ユネスコエコパークと呼んでいます。

※² 「志賀高原」、「白山」、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」、「屋久島・口永良部島」、「綾」、「只見」、「南アルプス」、「みなかみ」、「祖母・傾・大崩」（2018年7月時点）



3つの地域（ゾーニング）

出典：日本ユネスコ国内委員会

日本のユネスコエコパーク

※数字は登録年、カッコ内はエリアの国名



出典：日本 MAB 計画委員会

【日本ユネスコエコパークネットワークについて】

日本国内におけるユネスコエコパークの地域間連携を促進し、一つの地域では対応できない課題への対応、社会への働きかけなどを行い、ユネスコエコパークの理念に基づいた人間と生物圏とのより良い関係を築いていくことを趣旨とし、ユネスコエコパーク単位が会員として組織しているものです。

【志賀高原ユネスコエコパークについて】

核心地域	志賀山を中心とする上信越高原国立公園の特別保護地区
緩衝地域	上信越高原国立公園の特別地域及び普通地域
移行地域	長野県山ノ内町及び高山村の核心地域・緩衝地域以外のほぼ全域
登録	1980年（昭和55年）
拡張登録	2014年（平成26年）
関係自治体	長野県：山ノ内町、高山村 群馬県：中之条町、草津町、嬬恋村



四十八池湿原と裏志賀山、および散策用の木道

■志賀高原ユネスコエコパークの特徴

【自然環境】

志賀高原は、フォッサ・マグナ上に位置し、志賀山、草津白根山など複数の火山が密集した火山帯の外壁に囲まれた大きなすり鉢状内側に位置する高原で、大小70余りもの湖沼や湿原が多数存在する複数水系の水源地域となっています。ブナやミズナラなどの温帯の落葉広葉樹林、コメツガやシラビソなどの亜高山帯の針葉樹林が生育し、森林内には湿原が散在するなか湿地特有の植物も生育しています。また亜高山帯の針葉樹林の一部には原生林も残されています。こうした植生は、多様な動物種の生育にも影響を与え、ニホンザルやヤマネ、オコジョなどの希少動物や、イヌワシやヒガラ、ルリビタキなどの鳥類も生息しています。

【伝統的共有地と資源管理】

緩衝地域及び移行地域の山林の一部は、地元集落の伝統的な共有地であり、中世以前より資源を採り尽くさないよう共同で管理する、集落の入会（いりあい）慣行により、野草の採取や樹木の伐採など持続的に利用されています。また、河川の漁業権は地元住民による漁業協同組合にあり、雑魚川に生息するイワナ在来個体群は漁協の管理により適正な資源利用がされています。こうした地元住民団体による共同管理は、大型資本の参入や水利権の乱用を防ぎ、志賀高原ユネスコエコパークを守る役割を果たしています。

【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹活動、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,166万本（2018年2月末時点）を超えています。

※イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>

■植樹事業

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森の再生を目的としてアジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2018年度は、国内では福島県南相馬市、三重県松阪市、宮城県亘理町、宮崎県綾町、大分県竹田市、千葉県千葉市、沖縄県宜野湾市にて、海外では中国・北京市、ミャンマー・ヤンゴン、インドネシア・ジャカルタにおいて植樹活動を実施しました。



第1回 三重県松阪市植樹



第2期 インドネシア・ジャカルタ植樹（第1回）

■助成事業

【環境活動助成】

1991年より27年間「生物多様性の保全と持続可能な利用」のため、国内外の地域において、積極的に環境保全活動を継続している団体への助成支援を行い、累計では2,846件、総額25億9,200万円となりました。2018年度は、「植樹」、「里地里山里海の保全・河川の浄化」、「環境教育」、「野生生物・絶滅危惧生物の保護」の4つに改編して実施しました。

■連携事業

[生物多様性アワード]

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設。隔年で開催し、顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2017年度は、第5回「生物多様性日本アワード（国内賞）」、2018年度は第5回「生物多様性みどり賞（国際賞）」を実施しました。



第5回「生物多様性みどり賞」授賞式

[イオン環境セミナー]

国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値を共有できる教育を目的とするプログラム「イオン環境セミナー」を2016年より実施しています。2018年は、9月にインドネシア大学にて開催しました。



イオン環境セミナー（インドネシア大学）

[イオン未来の地球フォーラム]

地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考え、実行策を議論し、講演と対話型パネルディスカッションを通じて理解を深め、成果をまとめる「イオン未来の地球フォーラム」を開催しています。2019年2月2日（土）には、東京大学安田講堂にて、「第3回イオン未来の地球フォーラム」の実施を予定しています。



第2回イオン未来の地球フォーラム（東京大学）

■環境教育事業

[アジア学生交流環境フォーラム]

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。

2018年度は、「熱帯雨林からの贈りもの」をテーマに、王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）、ヤンゴン経済大学（ミャンマー）の9ヶ国合計72名の学生が参加し、8月2日～5日の期間、マレーシアクアラルンプールで開催しました。



第7回ASEP開講式（マラヤ大学内）